

私たちにとっては「当たり前」のケアに 宿る専門性とそれによるアウトカム

浅香 えみ子 (以下、浅香) 医療を取り巻く環境が激変する中、看護師がどのように専門性を発揮している、それにより対象者にどのようなアウトカムをもたらしているのかを可視化・言語化することが重要だと考えます。それぞれの現場で、看護師はどのように専門性を発揮し、どのようなアウトカムを生み出していますか。



カストロ口沙織氏

カストロ口沙織 (以下、カストロ氏) 私は現在、訪問看護ステーションの運営に携わっています。先日、地域の看護師約200人が集まり、病院から在宅へと看護が繋がった事例を通して、それぞれの看護や役割を振り返りました。病院の看護師には「自分たちの看護がその後どうつながったのか分からない」という思いがあり、在宅の看護師は「病院での退院支援があったからこそ、在宅で暮らすことができています」と伝えました。病院と在宅の看護師が直接、お互いの思いや役割を話し合うことで、より良い連携につながると感じました。こうした対話の積み重ねが、地域で患者を支える基盤になると思います。

また、現在の診療報酬では評価されないケアにもアウトカムや価値があると思います。例えば「家族と旅行に行きたい」という目標に向けたケアで、膀胱留置カテーテルが抜去できたケースがあるとします。カテーテルが抜ければ「特別管理加算」は算定できなくなりますが、利用者にとっては大きな成果です。状態が改善し、訪問看護がなくても在宅療養できる「卒業」も同様です。

当分では、こうした報酬では測れないケアを独自に「イクてケア」と呼び、可視化して会社全体

で共有しています。こうした「看護の質」が問われるケアが評価されるようになれば、一人ひとりの人生に寄り添う大切なケアが、もっと広がるのではないのでしょうか。

國江 慶子 (以下、國江氏) 実習指導を行う立場から現場を見ると、臨床の看護師の何げない「一言」や細やかなケアが、患者にとっていかに有意義で価値のあるものかを強く感じます。教員としてそれらを学生に伝えたり、看護師にフィードバックをすることで、アウトカムとして見える形にしていけることが大事だと思っています。例えば、1カ月以内の再入院率は、入院中の退院指導の内容によって変わってきます。どうなったら受診が必要なのかを、どう伝えるかによって救急搬送を避けられることもあります。自宅での転倒・転落も同様です。

一方で、看護師による実践は、一つの実践が必ずしも一つのアウトカムにつながるとは限りません。他のさまざまな影響要因がある中で、自分の実践にどのような意味があったのかを実感にくい難しさがあります。例えば、看護師の創傷ケアにより早期に治癒することは一つのアウトカムですが、それにより安心して自宅で暮らせるようになり、家族とのコミュニケーションにも良い影響を与えます。今の実践が対象者のより良い未来というアウトカムにつながっていると実感を持てることで、より看護師の判断と実践の意味が増すと思っています。



國江慶子氏

横山 藤美 (以下、横山氏) 当院では退院後訪問に新人や若手看護師を同行させています。「こうい

看護師の専門性とアウトカムを語ろう ～専門性とアウトカムの可視化・発信に向けて～

労働人口や18歳人口が加速度的に減少していく中、医療提供体制を維持し、限られた人員で質の高い看護を必要な人々に提供し続けるためには、看護師がさらに専門性を発揮できる体制づくりが不可欠だ。そのためには、看護師の専門性やそれらが対象者にもたらすアウトカムを社会に分かりやすく示していくことが重要である。そこで日本看護協会は、看護師の専門性とアウトカムを発信するため、看護師向け・一般向け・児童向けの3種のインフォグラフィック（情報を視覚的に分かりやすく伝える短い動画）の作成に取り組んでおり、9月に看護師向けの「看護師としての専門性の発信」を公開した。

本特集では、病院・訪問看護および教育の場で活躍する方々と、看護師の専門性やアウトカム、それらの可視化や発信について座談会を開催した。



横山藤美氏

う状態でも自宅に帰ることができる」と目の当たりにすることで、「多職種とのカンファレンスを何件やって、在宅につなげる」と目標を立てたり、自分の力で調整し、患者が自宅に帰れる経験を重ねることで成長しています。

また、看護師が自分の判断を他の看護師や他職種に共有できるよう、心理的安全性の高い環境づくりも欠かせません。認知症の患者が夜間に起きた際、2年目の看護師が先輩看護師に「何かしたいことがあるかもしれないので、私が付き添います」と見守る判断を伝えたことがありました。その結果、実は足がつって歩きたかったということが分かり、その後、落ち着いたそうです。若い看護師が気づきや判断を素直に声に出せる環境があるからこそ、個々の患者に応じた看護やアウトカムにつながるのだと感じています。

秋山 智弥 (以下、秋山) 医師が「点」で診ているのに対し、看護師は24時間、包括的に観て、常に必要な対応を判断・実施しています。手術が無事に終わり、合併症なく予定通りに退院できることが自体が奇跡です。看護師にとっては当たり前のことなので、それをアウトカムだと意識することはありませんが、褥瘡、感染、合併症

座談会参加者 ※右から

日本看護協会 会長
秋山 智弥

社会医療法人財団白十字会
佐世保中央病院 看護部長
横山 藤美

Wyl 株式会社
東北エリアマネージャー
カストロ 口沙織

東京都立大学
健康福祉学部 看護学科 准教授
國江 慶子

進行：日本看護協会 常任理事
浅香 えみ子



秋山智弥会長

など、さまざまなリスクがありながらも「何事もなく」経過しているというアウトカムを正しく評価することが重要です。「著変なし」という看護記録の4文字の裏に、看護師の専門的な観察と介入がどれだけあるか意識することはないでしょう。看護がいらなくなるというのは良い看護の結果です。本来はそこが評価されるべきだと思



います。

機能分化が進み、急性期病院では自分たちの看護のアウトカムを確認できないまま患者が退院してしまうケースが多いです。だから

こそ、急性期、回復期、在宅など異なる場の看護師同士が「線」を伸ばし合って「のりしろ」を作りながらつながり、ケアのフィードバックを受けることが重要ですね。

見えにくいアウトカムを可視化するために

浅香 見えにくいアウトカムをいかに可視化・言語化し、共有・発信していくかという点について、取り組みをぜひお聞かせください。

國江氏 「そのアウトカムがその人の人生にとってどういう意味を持つのか」という実感をつかんでもらうことが極めて重要ですが、同時に最も難しいと感じています。病院での研修では「実際に起きたらどうなるか」「起きなければどのような未来になるか」を考えてもらっています。例えば、深部静脈血栓症（DVT）予防のためのフットポンプ装着はルーティ

ン化されていますが、もしDVTが起きたら、多大な苦痛が生じ、追加検査や入院が必要となり、退院後も受診や内服を続けなければなりません。さらには、その人が次の手術を受ける時や飛行機に乗る時の不安にも影響するかもしれません。DVTが起きなかった未来は異なります。そのようなことを考えることで「起きたこと」の重要性を改めて感じ、フットポンプの装着などの一つ一つの関わりの意味を実感でき、自らの看護の意義を自発的に発信できるようになるのではないのでしょうか。

横山氏 自宅に帰って入浴するためには浴槽をまたがないといけないことを把握したり、飲み込みや誰が調理をするのかなどを確認し、その人が自宅での生活に生活するのかができて、必要な教育や指導、サービスを総合的に判断することは看護師にしかできません。その判断、そして調整が看護師の専門性の一つで、それにより自宅が安心して過ごすことができるというアウトカムが生まれます。

カストロ氏 看護計画は、看護師がどのような介入を行い、対象者の状態や生活がどう変化したのかを継続して評価できることが大切

だと思います。改善だけでなく、状態を維持できたことも看護の成果です。そうした成果を可視化し、「自分たちが良いケアを提供できている」という実感が持てれば、看護師のやりがいや、さらなる看護の質の向上にもつながるのではないのでしょうか。

秋山 アウトカム評価は看護になじみやすいと思います。リスクがあっても状態が安定している、生活の中でコントロールできていることが看護のアウトカムの一つです。こうした看護の価値を社会に理解してもらうには、訪問看護の現場を実際に見てもらうことが一番効果的だと思います。

DX・AI時代の看護師の専門性

浅香 労働人口の減少、DXやAIの進展といった大きな環境変化の中で、看護師が専門性を発揮し、アウトカムを生み出し続け、それを伝えていくためにはどうしたら良いのでしょうか。

秋山 ICTやAI、ロボットに任せられる作業は積極的に自動化・効率化すべきです。それによって生み出された時間で「最期まで口から食べ物を諦めない」「看護士にしかできない、その人の望む生活を続けられるような支援に注力することが求められます。

カストロ氏 現在、エコー画像を利用者や家族、多職種とのコミュニケーションに活用しています。テクノロジーから得た情報を、その人の生活と結び付け、ケアや多職種連携につなげることも、看護師の専門性だと思います。

横山氏 ICTを活用して観察やアセスメントの質を担保しつつ、対象者の全体像とその人がどう在りたいかを捉え、その人が地域で生活していけるような支援を考えられるよう、教育を続けていきたいですね。

國江氏 DXはツールであり、効

浅香 皆さま、貴重なご意見をありがとうございました。

今回作成したインフォグラフィックをぜひご覧いただき、それぞれの立場で看護師の専門性とアウトカムを、看護界から社会へ、そして次世代へと共に伝えていきましょう。本日はご参加いただき、ありがとうございました。

本会HPでは、看護師の専門性（現場で働く一人ひとりの看護師が日々行っている「看護師にしかできないこと、看護師だからできること」）の発信に関する看護師向けのインフォグラフィックを掲載しています。ぜひご覧ください。（2面に関連記事）

